

最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 12401001

性能分野	環境・省エネルギー性能		
大分類	その他室内環境の向上		
中分類	仕上材による室内環境の向上		
技術の名称	木質系仕上材の採用		
改修技術の概要	<p>【改修工事の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内に天然乾燥無垢材などを多用した木質系仕上材によるリフォームでは、安定した湿度や木肌によるぬくもりのある肌触りなど、健康上の観点からもさまざまな効果が期待できる。 ・木材に国産材を活用することで森は整備され、森の循環を形成し、CO2 の吸収量を高め、林業を育成する。 <p>【各工法の特徴】</p> <p>木質系リフォームによる全面改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専有部を一旦スケルトン状態にして、全面改修を行う方法、プラン変更、断熱改修通風の確保など総合的に改修できるため改修効果が大きいですが費用と工期がかかる。  <p>木質系リフォームによる部分改修（かぶせ工法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存壁などの上から木質系仕上材を取付ける方法 ・既存部の撤去が不要なため工期が短く居ながら工事ができる。各部屋を順番に改修することも可能。 ・仕上材を取付けるだけなので工事費も比較的安価。 		
	<p>< 出典（上図4点）：宮坂建築事務所 ></p>		
共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（ 劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55 年以前供給 中層階段室・壁式（総プロA1）	使われる可能性がある
		S55 年以前供給 高層・ラーメン（総プロA2）	使われる可能性がある
		S56～H2 年供給（総プロB）	使われる可能性がある
		H3～12 年供給（総プロC）	使われる可能性がある
		H13 年以降供給（総プロD）	使われる可能性がある
（補足）			

常にセットで利用される技術		
技術が適用される建物の部位		共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部) 専有部分 (設備・配管 その他専用部分) 設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 () 注意すべき主な法令 ()
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)() まとまった土地が利用できること(仮設以外)() 住宅の数が多く密度が高い() 特定の設備があること()
足場の設置が必要		必要 不要 ()
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 (全面改修を実施する場合)
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可(全面改修を実施する場合) 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 ()
	工事後に続く影響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限() 日照・採光等への影響()
当該技術が利用される工事		計画修繕工事(劣化の補修 性能の向上) 耐震改修工事(耐震性の向上 他の性能の向上)
技術的限界		
参考資料	技術情報	・「木の家リフォームを勉強する本」木の家リフォームプロジェクト編 (財)農山漁村文化協会
	価格情報	